

事業報告

ひきこもり相談・支援員養成講座を開催

10月17日、28日にひきこもり相談・支援員養成講座を開催し、48名の方に受講していただきました。

「ひきこもり」は現象で、背景には様々な問題が絡み合っていることから、ひきこもりの概念や社会状況との関係性、家庭・地域での居場所づくり、地域で支える仕組みと当事者による地域支援、就労支援等次にステップにつながるための相談・支援のあり方等を中心に学びました。相談・支援は焦ることなく、じっくり取り組むことが重要ということ、相談機関や支援者のネットワークを広げる機会にもなりました。

RAAP(ラップ)ファシリテーター養成講座第4期

一対話の中で自分の疑問をじっくり考えることができた時間—
人権・部落問題学習プログラム(RAAP(ラップ))を実施できるファシリテーター養成講座の第4期を1月28日から2月12日にかけて6日間の日程で開催しました。今期からの参加者は8人で、人権協会、解放同盟、NPO、行政・学校関係などからご参加いただきました。

《参加者の感想》

- ・実際にファシリテーターをして、そのフィードバックが得られたのが役立った。
- ・自分が問われるきっかけをもらえて、自分がどう思っているのか再発見することができた。他の職種や立場からの意見で、目が覚める思いをできた。

事業計画のつくり方講座

2月3日、10日、17日の3日間で「事業の手法で人権問題を解決する—事業計画のつくり方講座」を開催し、16人の参加がありました。講師は、社会的起業家育成を進めている田村太郎さん(NPO法人多文化共生センター・大阪、一般財団法人ダイバーシティ研究所、NPO法人edge代表理事)。

講座では、まず事業の課題と目的の明確化から、事業の手法、必要な人や資金、事業計画の作り方と評価手法を学びました。そして参加者が事業計画の骨子を作り、それを参加者に発表し、相互に評価を行いました。

《参加者の感想》

- ・私でも事業計画がつくれそうだ。
- ・これからの団体の活動に活かせたらと思う。



第3回相談事業研究集会

2月9日、HRCビルで相談事業研究集会が開催され、市町村人権協会の相談員等102名が参加されました。

基調講演として、内閣府パーソナル・サポート・サービス検討委員会委員の岩間伸之さんから、パーソナル・サポ

ート・サービスの理念や概要を、(特活)暮らしづくりネットワーク北芝の池谷啓介さんと(一財)八尾市人権協会の笠原辰司さんから具体的な実践報告を受けました。地域の関係者同士がネットワークを構築し、既存の制度にとらわれず、相談者に合わせた伴走型支援を地域で創造することが重要であることを確認しました。

借金/多重債務者支援講座(自殺予防事業)

3月9日と16日の2回にわたり、HRにて「借金/多重債務者支援講座」を開催しました。講師は実践的に活躍する方で、相談に携わる方にはすぐに役立つ内容でした。

《参加者の感想》

- ・借金の整理の仕方、流れをわかりやすい言葉で教えて頂けてすごく参考になった。相談することの敷居が低く感じられるようになった。
- ・支援者として大切なことを聞くことが出来、むずかしいことだと思っていたがネットワークで問題を解決していくことが出来ると思った。
- ・具体的な事例をとおして法律関係など細部に渡っての問題点を学習することで今後の相談に役立てることができる。

触法障がい者に対するSSTの実際

3月18日～19日、HRCビルにおいて、「2011年度触法障がい者に対するSSTの実際」を、SST普及協会認定講師の角谷慶子さん、足立一さん、大阪府立砂川厚生センターの福永佳也さんを講師に招き、開催しました。当日は、各市町村・人権協会、よりそいネットおおさか加盟団体など20人が受講されました。最終日には、16人の修了者に対して、SST初級リーダー養成研修修了証書が手渡されました。



人権のコミュニティづくり交流会

コミュニティづくり協働事業を発表する「人権のコミュニティづくり交流会」を、3月17日、HRCビルで開催しました。参加者は22名で、発表されたのは次の団体でした。

- ①新設Cチーム企画、②みのお外国人医療サポートネット、③ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・関西実行委員会、④社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会、⑤ジェネシスオブエンターテイメント、⑥在日外国人家庭もろふく共育プロジェクト、⑦特定非営利活動法人関西こども文化協会、⑧ Children's Views & Voices (CVV)